

農業次世代人材投資資金に対する利用者へのアンケート結果

有機農業参入促進協議会のウェブサイト「有機農業をはじめよう！」を通じて、有機農業関係者にアンケートの協力を呼びかけたところ、準備型（受給中：5名、終了：5名）、経営開始型（受給中：11名、終了：9名）および申請中・未受給者（4名）、計34名より回答があった。

1. 可能になったこと

同資金（準備型）を受給して研修を終了し、同資金（経営開始型）を受給中、または終了

- この資金がなければ、『研修』をするという事は考えられなかった。もし資金がなかったとしても、まずは農業をしていたと思います。しかし、素人の私が研修なしにうまく一人で生産は出来なかったと思います。1年間の研修で得たものは、今、私の農業においてかなり大きな自信となっています。
- 移住地で生活費を気にせずに研修を受けることができた。必要な機械類の購入できた。赤字を出しながらも、試行錯誤と規模拡大をすることができた。
- 安心して研修に集中できた。就農が1~2年早くできた。妻にとっても就農準備に入る際に大きな安心であった。子供を授かる時期は3~4年は後になっていたと思います。
- 生活にある程度の余裕がなければ、地域の役割、活動（消防団、農地水、区長や社会福祉協議会、体協など）にも生活の苦しさから時間的にも参加しにくくなるのは間違いありません。
- 仮に給付金がかかったとすると、子供を高校に通わせることすらできなかったかも知れません。
- 脱サラを決めた当時、私には子どもが2人おり、家のローンもありました。当面の収入が無くなるということについて妻や両親からは夢を応援したいと言ってはくれましたが、本心は大丈夫だろうかと不安に思っていたと思います。給付金により私個人だけでなく、家族みんなの生活の安心につながりました。
- 農業の道は思った以上にお金が必要だという現実を突きつけられ、この資金を受給できて本当にありがたいと思っています。

同資金（準備型）を受給しながら現在研修中

- 農作業を効率的に行うため、トラクター・ハンマーナイフモアなどへの機械への投資に当てました。
- 就農のためにフルタイムの授業や研修を受けることはおそらくなく、非効率で就農までの期間もずっと長かったと思います。
- 農業人口を早期に増加するために有効であると思います。
- いくつか農業研修をさせてもらいましたが、今回初めて準備型をいただいて学んでいます。以前の研修先では、失業保険や社会人時代の貯金を切り崩して研修先に通っていたので経済的に不安でした。この資金をいただくということは、農業で生きていく

覚悟が決まっている状態だと思っています。

- 研修で習得した技術や知識は、新規就農時に活かせる力となってくれると思っています。経営開始型が受けられなくなるかもしれないという話を耳にして、不安を感じています。
- 給付金を受給している先輩方から、新規就農時にこの資金にいかにも助けられたか、資材や機器の購入や生活にいかにも役立ったかを聞いています。新規就農と同時に就農資金や生活資金についての負担がのしかかったとき、果たして納得いくように農業を続けていけるのか、悩んでいます。

同資金（経営開始型）の受給を終了

- トラクターや管理機など必要な機械、資材を購入できた。
- 自動車や農機具の購入がスムーズにできた。
- 農業機械の購入（トラクター、管理機、フレールモアなど）、農業資材の購入（アーチパイプ、マルチなど）、肥料の購入（必要な肥料を投入）などにより、生産性、効率性が向上し、経営が早く軌道に乗った。
- 給付金がなければ、生活費が足らずに兼業農家にならざるを得なかった。今は専業。
- 就農時の精神的不安を和らげてくれた。
- 就農当時は、開墾から始めなくてはならない耕作放棄地で、給付金がなければ資金繰りが立ち行かなくなり、志半ばで農業を諦めざるを得なかったと思います。
- 就農当初は給付金制度が無かったので自己資金で就農しました。何も持っていない所から全て自分達で必要な資材を揃える必要がありました。始めるまでに必要な準備金が思っていたよりもたくさん必要で、マルチ管理機やビニールハウスを欲しくてもなかなか買えませんでした。給付金のおかげで手に入れることが出来ました。
- マルチャー管理機を購入できたことでマルチ張りの時間と体力が飛躍的に短縮できるようになり、その分畑の手入れにける時間が出来て、全ての面で余裕が出来てとても良くなりました。また、ビニールハウスを増やすことが出来たので、夏が短い地方で収入の柱となるトマト栽培を増やすことが出来、経営的にもとても良くなりました。

同資金（経営開始型）を受給中

- 梅など果樹は投資から回収まで十数年のスパンで見する必要がありますが、最低限の所得で投資ができなければ、資金が貯まるまで十数年間は規模拡大等の投資ができないこととなります。
- 新規就農 1 年目。中山間地で販売先も少なく、栽培レベルも低いためなかなか売り上げが上がらない現状。給付金は就農を続ける大きな助けとなっています。
- 農業資材、機材の購入には、先行投資が必要。給付金を当てています。
- トラクター（24 馬力）を購入し、経営規模の拡大への時間短縮になりました。
- 収入の安定には時間がかかる。給付金が打ち切られれば継続は難しい。
- 資金面で満足な農業ができなかったと思う。また、売り上げにも繋がりにくい。
- 新規就農後、経営が安定しなかったときも農業を続けられた。
- 当初の予定より早く就農できた。
- もし同資金が存続していなかったら、アルバイトをして生計を立てることになり、畑

へ行く時間が減り栽培技術の習得が難しくなります。また農閑期に醸造研修を行うことも困難になります。これらの予想からぶどうを安定して栽培できないと判断して、農業へ挑戦することはあきらめたと思います。しかし現実には経営開始型を受給しているので、畑での作業時間が確保でき栽培技術の向上が早くなりました。実際に就農 3 年目には県の品評会で 3 位、市の品評会で 1 位になりました。また農閑期には毎年ワイナリーで醸造研修を行い醸造技術の向上に励んでいます。今年は委託醸造ではありますが、念願のワインを仕込むことができました。これらの結果はこの資金の賜物であると思います。

2. 給付金がなくても就農を志したか

同資金（準備型）を受給して研修を終了し、同資金（経営開始型）を受給中、または終了

- 研修開始を決めたときにはまだこの制度はなかったもので、それがあったから志したわけではありません。
- もともと青年就農給付金を知らずに研修を希望していたので、就農は志していたと思います。しかし、給付金がなければ就農してからの最初の 3 年間はもたなかったのではないかと思います。

同資金（準備型）を受給しながら現在研修中

- 最初は反対だった私（妻）の農業への気持ちが、給付金のおかげで反対から賛成に徐々に変わり移住を決めました。
- 準備型を給付され、農業研修ももうじき終わり、このまま開始型を・・・と思っていた矢先に、減額されるとのこと。給付金の受給を前提で安心して農業を始められると考えていたので、何かの詐欺にあったような気持ちでなりません。
- 私が就農を志したのは前職で体調を崩してしまったことがきっかけ。おそらく当該資金がなかったとしても、半農半 X の形で就農はしたと思います。

同資金（経営開始型）の受給を終了

- 就農後に給付制度が始まったので、無くても就農していた。
- 就農の決意後、給付金が始まったのでなくとも志した。
- 他業種に就職し、6 年間かけて就農資金を稼いだため、無くても就農した。
- 無くても就農した。しかし、途中で挫折していたかも知れません。

同資金（経営開始型）を受給中

- 両親の農地やトラクター（13 馬力）があったため、就農はできた。
- 貯金があったが、農機具の購入などに思いのほか費用がかかった。給付金がなければ、資金難で離農していたかも知れない。
- 就農前に農業の専門学校で農産物直売所に勤務。自分自身で野菜を栽培したいと思い、給付金があることを知り、就農を決意。青年就農給付金がなかったら間違いなく、就農していなかったと思います。
- 給付金がなかったら、家族の同意も得られませんでした。
- もし給付金がなかったら、アルバイトをして生計を立てることになり、畑へ行く時間

が減り栽培技術の習得が難しくなります。また農閑期に醸造研修を行うことも困難になります。これらの予想からぶどうを安定して栽培できないと判断して、農業へ挑戦することはあきらめたと思います。

その他（申請中、未受給者）

- 申請中は、受給できるのかどうか、とても不安です。
- 農家でパートとして1シーズン働かせてもらったり、自分で借りた畑で野菜を育ててみたりする中で、農業は短期間に片手間で学べるような甘いものではないということを感じています。
- 就農後の必要経費などを考慮すると、研修中の生活費を貯金から切り崩していくことはとても無理と思います。
- 給付金がない状態では、もっとしっかりと収入が得られる雇用先を探す必要があります。
- 申請したが受給できなかった。就農1年目は思うような収益がなく赤字になった。無利子や低金利で貸してくれるところはなく、消費者金融から借りるしか道はなかった。

3. 給付金の効果

同資金（準備型）を受給して研修を終了し、同資金（経営開始型）を受給中、または終了

- 就農して7年経った今、地域の農家の方々が高齢化していて跡継ぎがない家が多々あるため、農村の維持には外部からの移住を受け入れることも必要なのだと実感しています。
- 今年は農業所得130万円、給付金150万円の見込みで、少しずつ貯金を増やせるようになりました。給付金がなくなる6年目の農業所得250万円を目指し、新しい企画にチャレンジしています。
- 生活できるくらいに農業経営が安定するには、どうしても4~5年はかかると思います。それまでの生活の支えが与えられているのは単に就農、という面だけでなく、就農を志す年代（20代後半~40代前半）にとって結婚や家族を増やしていく時期に大きな安心を与えてくれるものだと思います。
- 就農後もすぐに収入があるわけではありませんでした。10月に開始して初めての収入は11月でしたが2,000円ほどでした。研修中の1年間、助成金以外は無収入で過ごしてきたうえに、研修中に種まきをしてはいけないというルールがあるがゆえに、就農後直ぐの収入はありませんでした。幸いにも研修先から苗を分けてもらえたので、その年は若干の収入を得ることが出来ました。生活費に充てるには少ない金額（20,000円ほど）でした。そんな中、経営開始型の資金を受給できたので、生産へ投資が出来ました。資金を受給できていなければ、農業への投資が出来ず、生産活動が出来なくなる可能性がありました。
- 親元就農ではない新規就農は、農業で生計をたてていくにあたっては投資が必要となってきます。給付金を投資にあてたことで設備を整えることができました。給付金を活用して、トラクター、ビニールハウス（2棟）、管理機、除草機（ハンマーナイフモア）、畝たて機、防虫ネットや支柱パイプなどの資材などを購入。

同資金（準備型）を受給しながら現在研修中

- 2人とも親が農家でなかったため機械の持ち合わせがない中、農業投資に給付金が当てることが出来たのは助かりました。
- 近年の日本の自然災害の被害は年々大きくなっています。自然災害が起きたら、農地や畑は緊急避難場所や栽培中の野菜を食べることができる場所になります。地域として災害に備えられる場所ともなるのではと思っています。
- 研修を受けてわかったことは、農業の難しさです。作業内容は多岐にわたり複雑で、とてもアルバイトや副業をしながら習得できるものではないと身にしみてわかったときに、ありがたかったのは給付金でした。この資金のおかげで生活への不安も軽減され、研修に100パーセント集中することができ、心も体も新規就農に向けて着々と準備できると感じています。

同資金（経営開始型）の受給を終了

- 早く経営が安定した。
- 故障した田植え機の買い替え、出荷用バンの購入、管理機やウイングモアの購入など出費の大きい農業機械の購入に充てることができた。このことで、収入が思わしくなるときに、準備した就農資金を生活費に充てることができた。
- 管理機や農業資材を少しずつ買いそろえることができた。給付金がなければ、就農資金を資材などの購入に充てなければならず、行き詰っていたと思う。
- 就農当初はやはり色々失敗もします。まず農業を続けていながら、農業技術を上げていかなくてははいけません。こうして今でも農業を続けていられるのは給付金のおかげだと思っています。

同資金（経営開始型）を受給中

- 経営体として安定した農業者・農業法人を育てるために、就農初期のスタートダッシュが必要です。そのためには投資資金がとても有効だと考えます。
- 安定した就農資金があると安心でき、心置きなく、農業に専念することができる。給付金の申請に事業計画を作成したことは、計画通りいかない部分はあるが良い経験になった。
- 国の支援を頼りに研修・就農を決意した人は大勢いると思います。支援がなければアルバイトなどをして生計を立てるほかありません。それでは、時間がなく、技術習得が困難です。ですから支援があるおかげで作業時間が確保でき、技術の向上も早くなり、地域の人々の信頼にもつながると思います。
- 経営が安定するまでは長期間の思考錯誤と計画外の出費（トラクターの修理、作物の播き直し、作付け作物の見直しなど）があり、助かっている。給付金がなかったら、継続が難しかったかも知れない。
- 就農後、労力や技術が不足するなかで、規模拡大や販路確保などの課題を克服しながら農業を継続することができた。
- 現実には経営開始型を受給しているので、畑での作業時間が確保でき栽培技術の向上が早くなりました。実際に就農3年目には県の品評会で3位、市の品評会で1位になりました。また農閑期には毎年ワイナリーで醸造研修をおこない醸造技術の向上に励ん

でいます。今年は委託醸造ではありますが、念願のワインを仕込むことができました。これらの結果は同資金の賜物であると思います。

4. 給付金への要望

同資金（準備型）を受給して研修を終了し、同資金（経営開始型）を受給中、または終了

- 農業を志す人がいたときに、給付金があることで就農と定住がスムーズになると思います。今後ともこの制度が続き就農する人の力になると良いと思います。
- 農業は本人の所得のためだけではなく、社会のためでもあります。
- 定期的に納品している直売所では 70 歳を過ぎた農業者がよく納品にきますが、みな元気で楽しそうに働いています。生産や納品では頭も体も使うので、ボケている人もいません。農業は健康維持・医療費削減にも役立ちます。
- 規模拡大や 6 次産業化で儲かる農業を促進するのも大切ですが、小規模の農業者を増やすことも大切です。私は多くの新規就農者を見てきましたが、農業だけで生計を立てるのは非常に難しい。特に最初の 5 年間は、給付金を受給してもみなギリギリの生活です。どうか、新規就農者への支援継続をお願いします。
- この恩恵はまだまだ農村社会にとって必要なものです。その基盤が突然なくなったり、変更が何度もあったりすれば、就農を目指していた人にとって農業という職種を選択することがより困難なものになり、農業従事者の高齢化を加速させるものになるのではないかと危惧しております。
- 農業者人口が減っている中で、食料自給率も下がり、さらに食糧の海外依存が進んでいるように感じています。人は食べなければ生きていけません。その大切な食料を自国で生産しないというのは間違った判断だと思っています。
- お金で話をする経済とは違うレベルに食糧生産は位置づけて考えるべきであり、その為の施策を実施することは国民の本意だと国として宣言してほしいです。
- 日本の農業は、代々農家で長男が後を継ぐというのが暗黙の了解でしたが、現代はそうになっていません。こんな大変な仕事は継がせられないと、自分の代で農業を終わりにすると言っている農家の方に何人も会いました。
- 親元就農は大切ですが、私のような、非農家出身の新規就農者をもっと集めないとともに農業者人口は減っていくと思います。給付金はその新規就農者拡大に、絶対に必要な資金だと思います。
- 新規就農者を増やすためには、新規就農でもしっかりと生業として収入があるということを実証することが最重要事項だと感じます。しかし、年に 1 回しか「その時のその作物」という実験が出来ないという現実があります。うまくいけばいいのですが、失敗すればやり直しは来年となり、そうすると目標達成に時間がかかります。その間の収入を補填してくれる資金は大変重要なものになっています。
- まだ今は、新たな就農者を育てるという事例づくりのための投資の時期だと思います。ぜひとも、今現在頑張っている農業者と、これからの農業者の為に、給付金の予算の継続、拡充をお願いしたいと思います。
- 一定の生産量を確保しようとすれば、設備投資は不可欠なものになります。就農経

験から、就農資金としては最低 300 万円、できれば 500 万円必要だと考えています。給付金はその部分を担ってくれる資金として、新規就農者にとって非常に有用なものであると実感しています。

同資金（準備型）を受給しながら現在研修中

- 一から農業を始めることは、私達新規就農者にとって代々続く田も、畑も、機械も、農業に適した住宅も、そして技術も能力もなく、それを得ていくには「資金」がとても大切です。
- 農業後継者が減ってきている今、このまま給付金がなくなってしまうたら、ますます若手農業者が減っていくのは目に見えることであり、ましてや私たちのような新規就農者は農業を始めるという手立てが全くなくなったのも同然なのではないかと思えます。
- 国の行っている農業者を増やしたいという関連事業では、この給付金の政策は最も必要なのではないかと思えます。なので、この政策の予算の大幅カットは絶対にしないでほしいと思えます。
- 「受給できると思い研修/就農始めたができなかった」とか、「受給して就農したがうまくいかず離農した」等の声も聞こえます。結果として私は受給ができましたが、結果がわかったのは研修を始めて半年以上経過した後で、それまで「今年は予算が減った」とか、「枠がそもそもいくつしかない」などと聞かされ、とても心穏やかではありません。
- 制度としても就農者としても不幸を生まないように、事前審査制にしてはいかがでしょうか。あらかじめ需給が決まっていれば研修生は心置きなく学習に集中でき、頓挫の可能性が高い計画を立てた就農者は事前にチェックを受けることで対策を練るか、またはダメージの少ない状態で就農をあきらめることができるでしょう。
- 予算の都合上対象者が減るのは仕方がないことと思えますが、もう一歩ご配慮いただき、就農希望者へのより良い支援としていただけたらと思えます。
- 経営開始型の給付が難しいという話をうかがったときには、正直ショックでした。給付金に頼りっぱなしが良くないのはもちろんですが、親が農家でない 20 代の若者が就農するにあたって、機械や資材を購入したり、お金を借りたりすることが難しいのは、容易に想像できると思います。社会的に見れば、起業時に運転資金を国や県などに補助してもらうことはないので、研修中や新規就農後に給付金をいただけることには感謝しています。
- 研修期間中も給付金は、私を心強く支えてくれています。研修終了後、農業を生業としていくために、これからも日々勉強し、努力します。この資金が続いていくことを、切に願っています。

同資金（経営開始型）の受給を終了

- 畑を借りてもアルバイトに精を出し、結果として離農する方もいます。農業を継続するには、経営力も必要。そのために、受給資格に夫婦で就農、自己資金として 500 万円準備などの要件を設けるなどが必要ではないでしょうか。
- 真面目に就農を志している方に給付されにくい制度であれば、やめた方が良いでしょう。

- 持続的に若手の新規就農を促す啓発が必要です。私のやるべきことも自分の持続的農業とともに、我が地域の農業の担い手育成と心得ています。他産業に比べてスタートダッシュの収入を得ることが難しい農業を、今後も支援していただく資金の給付が不可欠です。
- 地域の食や暮らし環境を支える農地の利用には、個々の農家の存在も確実に必要です。農業の多様性と新しい社会の場を生み出していくためにも、準備型・経営開始型の資金の給付を継続していただくよう切実にお願います。
- 今後、もっと農家として新規就農して且つ農業を続けていける様にして日本の有機農家をもっと増やし、当たり前のように有機野菜が食べてもらえる世の中にしていくためにも、給付金を維持していただきたいと思ひます。

同資金（経営開始型）を受給中

- 5年後以降のことを考えていない受給希望者は、厳しく指導する必要があると考えます。ギリギリで生活する農業者を増やしても農業は活性化しない。経営者として国の資金を使用して事業を行う覚悟があるか、能力があるか、面談を市町村、県、地方農政局で段階的に行うなど、厳しく見定める必要があると思ひます。
- 農業界は新規参入者が設備や社会性の面で圧倒的不利なので、他業種に比べ旧態依然とした状態が変わりにくい面があると考えます。国が本当に農業を強くしたいなら、投資資金の要件を厳しくすることはあっても、予算を大幅に減らすことは妥当ではないと考えます。
- もし、給付金が減額になるとしても、バッサリカットするのではなく段階的に減るようにしてもらいたい。収益が上がらないと農業は続けられないので、厳しい審査が必要と思ひう。
- 耕作放棄地が増加するなか、自給率を上げ、若くて就農したい人を確保するためにも、必要性を検討してもらいたい。
- 給付金を減額したり、中止したりすると、若い新規就農者は減り、離農者も増えると思ひます。現実に即した施策をお願いします。
- 給付金の支給日が遅れぎみで、10か月も間隔があいたときもあります。機械などを計画的に購入するためにも、半年に一度の送金を徹底してもらいたい。
- 農業へチャレンジする人達に、これからも支援をお願いします。
- 農業に参入する全ての人が高額な資金を持っているわけではありません。志は高いが金銭的には厳しい人の背中を押すために、給付金を存続させることが重要だと考えます。
- 産業、景気、教育、資源に未来がないのであれば、せめて食だけは自国で賄えるようにすべきだと思ひます。理由は「国家は人なり」だからです。その根拠として人は体が資本であることが挙げられます。人は体を維持するために食べなければなりません。つまり食べたものでその人は出来上がっています。従って食の質がその人の質につながります。
- 食の質を向上させるには、自国で栽培する農作物を増やす必要があります。そのためには農業に従事する人を増やすことが重要です。

- 本気で国家百年の大計を考えなければ国が滅びます。時間が解決すると思わないで下さい。目先の数字や端的な結果だけで一喜一憂して間違った方へ舵を切らないことを切に願います。

その他（申請中、未受給者）

- 若者が農業に参入（独立就農）しない最大の理由は、初期費用の高さだと思います。本や就農相談では、農業を始める前から貯蓄として 200～300 万円を持っていないと当たり前のように書かれ、アドバイスされますが、それを 10 代あるいは 20 代前半の方々には容易にはできません。したがって、給付金はとても重要だと思います。
- 日本の自給率を下げるか、少しずつ回復していけるかの大きな岐路に立っていると思います。それがこの給付金の有無にかかっているのだと思います。
- これからの希望である農家の芽を摘まないでください。もっと長い目で日本の農業について考慮していただけることを心から願っています。
- 市や県からは、給付金があることを前提とした 5 か年計画の作成をもとめられます。しかし、給付金の受給がなければ、機械の購入もできず、計画の実行すらできないのが現状。技術援助のため、定期的な巡回を市や県にもとめたが、受けることができなかった。困ったことがあれば相談に来るように言われても、初心者には現状を正しく認識できない。国、市や県は、就農者の頼りにならない。
- 私は、年齢的に受けられる支援がないが、子どもは、農業者になれるだけの農地があるにも関わらず、市から予算がないから研修にいかないでくれと言われ、勉強の道を断たれた。

5. まとめ

アンケートの回答から伺えること

給付金の受給を通じて、「生活費を気にせずに研修を受けること」「必要な機械類を購入すること」が可能となり、経営の規模拡大に繋がった。

また、「安心して研修に集中でき」「家族みんなの生活の安心に繋がる」ことで、「就農が 1～2 年早く」なった。「給付金がなければ、生活費が足らずに兼業農家にならざるを得なかった」との回答もあった。

このように給付金は、新規就農者の農業経営に経済的物質的な支援のみならず、精神的にも重要な役割を果たしていた。

もし、給付金がなかったら「家族の同意も得られず」、給付金のおかげで「就農に対する家族の反対から賛成に徐々に変わる」きっかけになった。また、「就農を志す年代（20 代後半～40 代前半）にとって、結婚や家族を増やしていく時期に大きな安心を与えてくれる」効果もあった。

「農業経営が生活できるくらいに安定するのはどうしても 4～5 年はかかる」。「5 年後以降のことを考えていない受給希望者は、厳しく指導する必要がある」。「ギリギリで生活する農業者を増やしても農業は活性化しない。経営者として国の資金を使用して事業を行う覚悟があるか、能力があるか、面談を市町村、県、地方農政局で段階的に行うなど、厳し

く見定める必要がある」。

「国が本当に農業を強くしたいなら、投資資金の要件を厳しくすることはあっても、予算を大幅に減らすことは妥当ではない」、「今後ともこの制度が続き就農する人の力になると良い」など、制度を改善しながらも継続を要望していた。

給付金受給者のすべてが、資金を有効に活用し新規就農者として定着しているとは言えないのは事実である。研修受入先からは、給付制度の必要性とともに、制度そのものへの批判も聞かれる。しかし、農業者の高齢化と担い手不足を改善するためには、農外からの新規就農希望者が重要な役割を果たしていることも事実である。本給付制度が新規就農者に果たしている効果を評価したうえで、受給者の選定方法など運用上の改善を行いながらも、農業の担い手を育成する重要な制度として継続されることを希望する。

藤田正雄（NPO 法人有機農業参入促進協議会）

農業次世代人材投資資金（旧青年就農給付金）の重要性

この20年余りで、農業者がほぼ半減した。離農の理由は何か、あらためて問うまでもない。農業所得が不安定で、そのことが原因で農家個々に後継者がなく、地域農業社会の活気が失せて地域協同が弱体化していく現状では、自家の農業経営の先に希望を見出せなくなるのは当然であろう。加速度的に高齢農業者が撤退してゆき、ごく少数の農家後継者が「定年帰農」するのみである。

農家経済が安定しないのは農家個々の努力不足が要因ではなく、農業政策全体の構造的な問題である。問題解決のためには複眼的な視点と総合的な対策が必要である。その対策の要の課題が「就農者の数を確保すること」であることに異論はないであろう。

こうした農村の状況の中、当 NPO は新規参入を希望する就農志願者を研修生として受け入れ、地域に就農させて経営定着までを指導支援する活動を行っている。厳しい状況の中にも希望があると信じるからだ。

希望とは何か。農業者になりたいと相談に来る人たちが少なからず存在することだ。相談者のほとんどが「有機農業者になりたい」という。彼ら彼女らは地域と地球の未来に関わりたい、環境保全や循環型社会の構築に貢献したいと望んでいる。未来の地球環境の悪化を少しでも食い止めたい、子供たちに健やかな自然を残したいと、実に健全で倫理的な思いにあふれている。

彼らの未来には希望がある。彼らの力になりたいと思う。

「ロスジェネ」の彼らには、想いは十分あるが金がない

30～40代前半の就農志願者は、研修にまでたどり着くまでに、さまざまな職業経験を積んでいる。異業種のさまざまなスキルと多彩な発想力を持っている。彼らの経験値は今後の農業社会におおいに役立つに違いない。彼らの力を十分に活用すべきである。

志願者の多くは、いわゆる「ロスジェネレーション」にあたる。高等教育を終えた後の就業に恵まれなかった世代であり、結果的に多くの者が金銭的な蓄えが少ない。就農と地域に関わろうとする意欲にあふれているが、残念ながら金がない。価値ある人材を地域振興に活かすためには、公的な支援が不可欠である。

農業次世代人材投資資金は、より大きく企画すべき

農業者育成のために、より大きな投資が必要である。人を育てなくては、農業社会は萎

む一方となる。農業者数を維持し、あるいは増やすことなしに食料の国内自給率を高めることなど不可能である。

筆者は長く農業教育の現場で働いてきた。人を育てることには、長期的な視点が必要である。人材育成の課題において、公的予算の数年単位の改廃などあってはならないことである。教育事業運営は安定的でないとならぬ。農家後継者が育たない社会状況の中では、新規参入志願者を一人でも多く拾い上げ、大切に育て上げて力のある農業者になるよう支援し、持続的に誘導すべきではないのか。

新規参入志願者のすべてが未来の農業者として望ましい人物であるとは限らない。中には能力的に不十分であったり、問題行動を起こしたりする者も混じることがあるかもしれない。だがしかし、そうした例があることを以て農業者育成の大義にブレーキをかける理由にはならない。志願者の大多数は大きな可能性を持った人々である。多くの可能性と希望の芽を摘んではならないと、切に思う。

農業次世代人材投資資金は、日本の未来に関わる大きな課題である。今まで以上に拡充し活用すべきであって、縮小などあってはならない。

以上を申し上げるのは、長く農業者育成に関わって来た者の、経験に基づいた確信からである。

涌井義郎（NPO 法人あしたを拓く有機農業塾）